

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会

道東技術士委員会

文責：道東技術士委員会 幹事長 丹羽 勝久

令和 6 年度

第 83 回総会・情報交換会／第 84 回情報交換会

1. はじめに

コロナ禍が明け、日常を取り戻した令和 6 年度ですが、道東技術士委員会では執行体制が新しくなりました。今回は新体制で令和 6 年度に行った活動をレポートとしてご報告いたします。

2. 第 83 回総会・情報交換会

久々の顔合わせが行われた令和 5 年度に引き続き、令和 6 年度においても総会と情報交換会を企画、開催しました。

○日時：令和 6 年 7 月 19 日(金) 18:00 より

○場所：IN THE SUITE(帯広市)

総会ですが、開催に先立ち、紅葉代表より「技術士を巡る最新の動向 2024」の説明がありました。その後、事務局から事業報告・決算報告及び新年度予算案について報告、提案し、ご出席の委員の皆様にご承認頂きました。また、今年度においては役員の改選についても議論が行われ、新たな役員のご承認を頂きました。

代表：紅葉 克也

副代表：上野 博司

副代表：鈴木 正裕

防災担当幹事：清水 慎吾

幹事長/事務局長：丹羽 勝久

情報交換会では約 50 名の方が一同に介し、大変賑やかな会となり、委員同士の情報交換が活発に行われました。技術士の平均年齢が約 43 歳と言われている中、本委員会に 20 代技術士が加わったことも大変喜ばしいことでした。

私(丹羽)としては、今まで鈴木副代表が担ってき

た司会・進行役を次回から担当するプレッシャーを感じる機会となりました。



写真-1 情報交換会の様子



写真-2 20 代技術士となられた関根 絵理 様

3. 第 84 回情報交換会

新役員を中心に議論を重ね、テーマを「技術伝承」とした情報交換会を実施しました。

○日時：令和 7 年 3 月 27 日(木) 18:00 より

○場所：釧路プリンスホテル(釧路市)

開催趣旨は下記の通りです。

「コロナ禍の影響等により、昨今、ベテランと若手のコミュニケーション不足が露呈するようになり、円滑な技術伝承がこれまでよりもうまくいかないケースが散見されるようになった。このことから、ベテランと若手の融合に向けた様々な方法論を情報共有することにより、今後の技術伝承を円滑に進めていくための「きっかけづくり」を行うことを目的とする。」

(1)「技術伝承」についての意見交換

鈴木副代表の司会の元、①参加者の組織の年齢構成、②世代間の意思疎通・技術継承における課題、③ベテランと若手の融合策・技術伝承策、について活発な議論が行われました。項目別に議論内容を要約します。

1)参加者の組織の年齢構成

参加者の組織を①年齢が高い世代ほど職員が多い組織(タイプ1)、②年齢が低い世代ほど職員が多い組織(タイプ2)、③40代の職員が他の世代に比べて少ない組織(タイプ3)、④40代の職員が他の世代に比べて多い組織(タイプ4)、⑤その他(タイプ5)、の5区分に分類しました。

その結果、年齢が高い世代ほど職員が多い組織(タイプ1)、40代の職員が他の世代に比べて少ない組織(タイプ3)の組織が突出しており、両組織が全体の75%を占めることが分かりました。

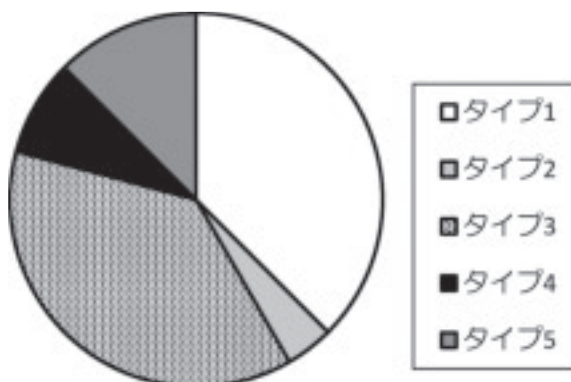


図-1 情報交換会参加者の組織の年齢構成

タイプ1の組織では、なかなか若い人が入社しないという問題を抱えていました。また、タイプ3の組織では、本来若者とベテランの橋渡しとなる中間世代の人員が少ないことが、よりいっそう技術伝承を難しくしていると感じました。

2)世代間の意思疎通・技術継承における課題

下表に示すように、課題についても様々な意見が出ました。

表-1 世代間の意思疎通・技術伝承における課題

自発的な行動の不足(指示待ち)
業務外でのコミュニケーション不足
時間外勤務の考え方の相違
世代間ギャップ
転勤を機にした離職

3)ベテランと若手の融合策・技術伝承策

若手との融合策・技術伝承策ですが、各組織とも色々ご苦労されているようですが、その中でも様々な取組を聞くことができました(表-1)。

表-2 ベテランと若手の融合策・技術伝承策

育成プログラムの策定
業務マニュアルの作成
真似から自分で考える力の育成
従来法による指導(遠慮しないでしっかりと指導)
1日1回の声掛け
交流会(飲み会等)の実施

「自分で考える力の育成」に関して、業務検定時の若手職員の同席を積極的に促している組織も見られました。検定時の管理技術者の対応から様々なことを学ぶことができると思います。先輩技術者の背中を見て「技術」を学んだ私のような世代には大変共感できる取組でした。

なお、これらはあくまでもベテラン側から若手を見た場合の一面的な議論であり、バイアスが含まれていることに留意して下さい。



写真-3 意見交換の様子



写真-5 清水防災担当幹事による乾杯の発声

(2) 懇親会

情報交換会終了後、そのままの勢いで懇親会が始まりました。1年ぶりの釧路開催ということですが、十勝方面からも多数の参加者がかけつけ、盛り上がったように感じます。

大変、喜ばしいことに、本会には約2週間前の3月14日に技術士2次試験の合格発表がありました。その合格者が4名出席しており、委員の皆様と積極的に交流している様子が見られました。

なお、本会は、上野副代表による一丁締めにより、滞りなく閉会したことを申し添えておきます。



写真-6 歓談の様子



写真-4 懇親会で挨拶する紅葉代表



写真-7 上野副代表による締めの挨拶

《令和6年度 2次試験合格者》

建設部門：道路
坂野 俊介 様(環境コンサルタント)



建設部門：道路
金井 勝幸 様(環境コンサルタント)



建設部門：道路
早坂 翼 様(環境コンサルタント)



建設部門：土質及び基礎
佐々木 大 様(ズコーシャ)



4. おわりに

「今どきの若いものは」という言葉、つつい出ちやいますが、自分が若い頃は同じように言われたものです。日進月歩で目まぐるしく変化する世の中ですから、若者とは価値観が違うのは当たり前だと思います。そのような中でも積極的な声かけや、交流等、例え「今どきのベテランは」と言われつつも頑張っていかなければいけないと改めて感じました。

一方、技術というのは世代感に関係なく普遍的なものだと思います。着目しなければいけない点は、作業と技術は大きく異なることです。「作業」はマニュアルが整備できれば、その通りに実施することで、十分対応が可能になると思います。しかし、技術は違います。作業を行うためのバックグラウンドを把握し、作業結果がどう課題解決に結びつくのかを考える必要があります。すなわち、「作業」に魂を吹き込むのが「技術」です。このことから、「技術」はマニュアルだけでは身につかず、やはり先輩技術者が「作業」にどのようにして魂を吹き込んでいるのかを、若手がそばで感じながら、まずは模倣から始めていかなければいけないと思います。表-2 に示している「真似から自分で考える力の育成」等はまさにそのことズバリの意見と考えられます。

その点では、今回、集まれた会員の皆様は「技術伝承」を考える上でキーマンになる方々です。「今どきの若いものは?」、「今どきのベテランは?」とお互いブーブー言いながらも、協力し「作業」に魂を吹き込んでいくことが、次世代への「技術伝承」に繋がるものと信じてやみません。

以上、勝手な私見を述べてきましたが、今回は事務局が変わった後の最初のイベントであり、至らぬ点の多々あったと思います。その点についてはお許し頂くと共に、令和7年度も委員の皆様には有益なイベントを考えていきたいと考えていきますので、よろしくお願いします。